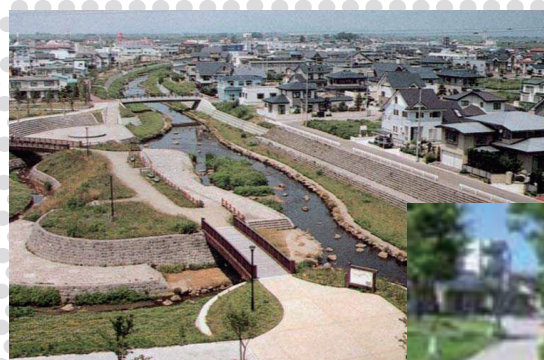


力強い助言と支援

NPOコレクティブハウジング社の呼びかけに応じて、助言者として河川情報センターの布村明彦理事長と日本におけるランドスケープ・造園学の第一人者である進士五十八(しんじ いそや)東京農大名誉教授・農学博士が私たちの活動に共感してくださり、現場にて助言くださったことは、非常に力強く、また専門家の確信のある知見が、皆を力づけてくれました。

「かもめ虹色会議」の思いにつながる、全国の事例からいろんなケースを紹介してくれたり、実現に向けたアドバイスをいただきました。お2人は、まちづくり協議会の会長さん、福興市実行委員長とも意見を交わして共感し、佐藤町長さんとも森・里・川・海のランドスケープの大切さを話されました。

こうした専門家のアドバイスは、いろいろな河川に共通した知見だがハード先行のなかで具体的に進めるには、「かもめ虹色会議」のような地域の人たちの熱い思いが重要です。



親水護岸の様々な事例



発行日：2014年2月27日
発行：NPO法人コレクティブハウジング社(CHC)
〒171-0031 東京都豊島区目黒3-4-5
アビタメジロ302
電話：03-5906-5340 / メール：info@chc.or.jp
執筆・編集
[CHC南三陸町支援チーム]
大橋徹平、狩野三枝、川上英里、マーレン・ゴツィック、渡邊喜代美
[協力] 塩崎由人、色田彩恵

■CHCでは、以下の助成金によりこの活動を推進しています。

平成25年度 独立行政法人 福祉医療機構助成 社会福祉振興助成事業
助成事業名：復興へのまち・コミュニティ創再生支援事業

南三陸町
つながる
未来通信
No.10

このニュースレターでは、
様々な仮設住宅やまちで南三陸町の方々が取り組まれている
元気の出る活動を紹介し、
これからの暮らしづくり・まちづくりに向けて、
皆さんがこのまちで大切にしていきたいと思っていることを
私たちなりに発見し、綴りたいと思っています。

発行元：NPO 法人コレクティブハウジング社(略称：CHC)

次世代に引き継げる活き活きした“ふるさと”再生しよう

50年、100年を見通し次世代に引き継げる活き活きした“ふるさと”新しい賑わい、愛を取り戻したいと願っている「かもめ虹色会議」を応援しています。

あらためてニュースにして、被災前のことを思い出したいと思います。

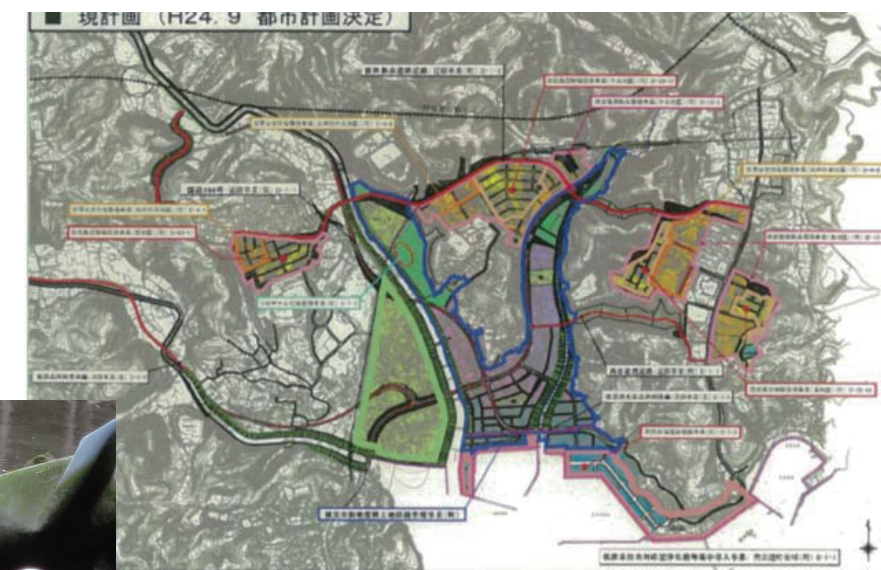
森・里・川・海とゆたかな分水嶺に囲まれたこの地域は、
漁業・農業・林業が暮らしを支えて、人の気持ちも穏やかな地だったことでしょう。

志津川エリアの中心部にある3本の川、左から「水尻川」「八幡川」「新井田川」。

町によると、「水尻川」「八幡川」はギンザケで潤う自慢の河川で、1980年のギンザケ水揚げ量は、3000t、25億に達したという記録であったことはみなさんご存知でしたか。

ギンザケについては被災後も大変期待されているし、南三陸町の経済を左右するといっても過言で無いと聞きました。

また、森・里・川・海は、祭りや伝統行事、親水で町の中心的存在で、町民の記憶は薄れないでしょう。しかし、この都市計画図には町民の記憶、希望や息吹きが入っていない。しかし、都市計画決定とは、骨格を決めるだけのものといってもよいもので、これに何とか息吹きを吹きこみ、50年、100年を見通し次世代に引き継げる活き活きした“ふるさと”新しい賑わい、愛を取り戻したいと願っている「かもめ虹色会議」を応援しています。



「かもめの虹色会議」は、町を愛する人々の思いで
無機質な計画図に暮らしを彩っていきます

「かもめの虹色会議」は、無機質な計画図に暮らしを彩る 住民主体のまちづくりプロセスです

志津川本来の風景や営みの記憶を、未来の計画に反映させるために、毎週金曜日に勉強会を重ねています。
これは、志津川まちづくり協議会の公園部会の工藤真弓さんをはじめとするメンバー有志、ネイチャーセンターの方々など、南三陸町を愛する人たちによる、絵画のようなまちの計画案です。



そして「ぼくのふるあとはこわれたしづかわ」といった幼子に託す未来に向けて希求する強い思い。
その思いに共感して、ささやかながら支援を、連携を続けてきました。
“ふるさと”を再生する「かもめ虹色会議」は、無機質な計画図に生氣を入れつつあります。

この写真は被災後、生態系がもどり始めたことを物語る写真です。
最近、八幡川では、鮭、うなぎ、はぜ、鯉、あゆ、ふぐ、ぼら、かじか等17種を確認しています。
水尻川にはサギ、カモが戻ってきました。
希望は、自然の生態系がもどることからはじまる。がんばれ「かもめ虹色会議」。
「ぼくのふるさととはこわれたしづかわ」の自然はすでに再生を始めていますよ。

